

IR 法案にもっと日本的知恵を盛り込め!

—日本型カジノの模索を—

金沢工業大学客員教授
(株)人間と科学の研究所 所長
飛岡 健

前号の(1)と(2)で今回のIR法案への考え方を述べ、もつと日本型カジノを研究し、世界に誇れる日本型カジノを建設せよと語ったが、ここではその一例を示してみたいと思う。

(3) 望ましいIRのお手本

それでは今議論されているIRの望ましい形、姿等とはどのように描像していけば良いものが生みだせるだろうか?

私は既に世界に、統合型リゾート地と呼ばれる多くの良い手本があると思う。まずそれを見てみよう。

① IRを内包する都市

一つは、ロンドン、パリ、ニューヨーク等の都市そのものであり(図4)、二つ目は、モンテカルロ(モナコ)やバーデン・バーデン(ドイツ)、そしてラスベガス(アメリカ)のようなカジノを含む地域全体として構成されているIRである(図6)。それ以外にも世界の人々が好む統合型リゾート地が世界の中には沢山あるし、最近ではバリ島が注目され、大変な勢いで開発がなされ、バリ島全体がIRになっている。

上記三つの都市は元々自然が豊か

で、その都市の中心を大河川が流れており、素晴らしい橋がかかり、昔から海上交通の役割を大きく担い、その周辺都市景観を造り出すと共に、大きな観光資源になっている。そして交通の要所であり、何よりも金融と商業の中心地になっており、河川流域が観光地としても盛んであり、世界中の人々を虜にしている。

○ロンドン

…テムズ川

○パリ

…セーヌ川

○ニューヨーク…ハドソン川

そしていずれの都市もその中に多くの有名公園を有し、人々の散策の場や憩いの場となっている。そして有名な動物園、植物園があり、大学、官庁、マスコミや歴史的遺産や、芸術家が集う地区があり、そして丘があり、様々なシンボルがあり、多くのイベントが催され、街として活き活きと活動しており、何よりも人々が豊かに暮らしている「活きた街」と言えよう。

こうした要素が各々の国の一番の、それも世界的観光地になっているし、その中にIRと称することの出来る地区を内包している。重要な事は、素晴らしい自然と人類の活動の遺

産と様々な創造(芸術、産業)の場面を同時に見る事が出来る事によって、訪れた人々が気分転換をすると共に、明日からの人生へのエネルギーを蓄えて帰れる。そして何よりも人々が旅や休暇から帰ってから、自らの周りの人々に「話題」(新珍奇と歴史的、自然的遺産)を提供出来る事が重要な要件となっている。

今回の日本でのIRに関しては、そうしたカジノを含むIRを建設し、都市全体そのものを建設し、その中にIRを運営することが望まれているのではないかと思うが、いかがだろうか? 何故なら、東京、大阪、名古屋等がかなりの都市機能を集積していて、前述の世界の三大都市と比べても、かなりのIRを形成するポテンシャルを、図3(前号)に示したように持っている。しかし幾つかの点に見劣りする点があるので、それを補充して行けば、三大都市に遅れをとらない、しかも日本型の新しいタイプのIRが出来る可能性を持っているのではなかろうか? それでは何が欠けているのか?

その一つは、都市名の前に形容詞が付いていない事である。即ち、「霧

のロンドン」や、「花の都パリ」や、「眠らない街ニューヨーク」のように、東京、大阪、名古屋には世界に通用す

る形容詞がまだ付けられていない。その事は真に文化的側面を始めとして幾つかの点で見劣りするからであ

る。もち論、歴史的発展の差がある事も確かであるし、世界の歴史的舞台になった事がないので、知名度は低

いのはやむを得ないのである。やはりそこに住む人々と訪れる人々の出会い、その土地ならではの体験を総合

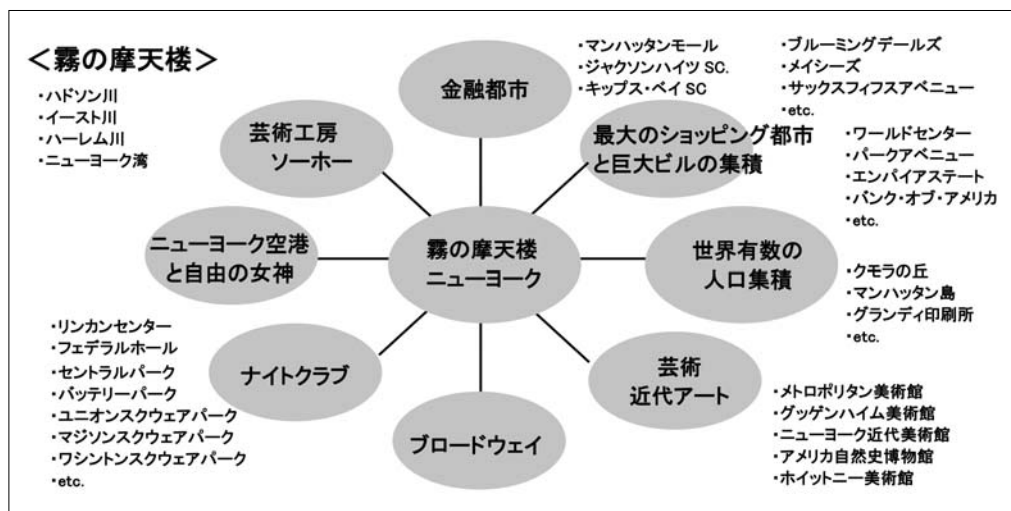
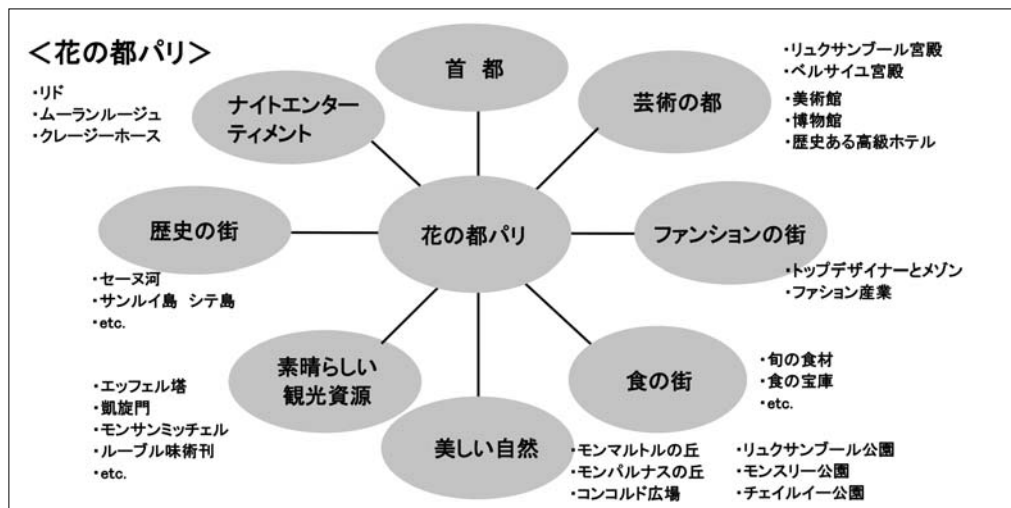
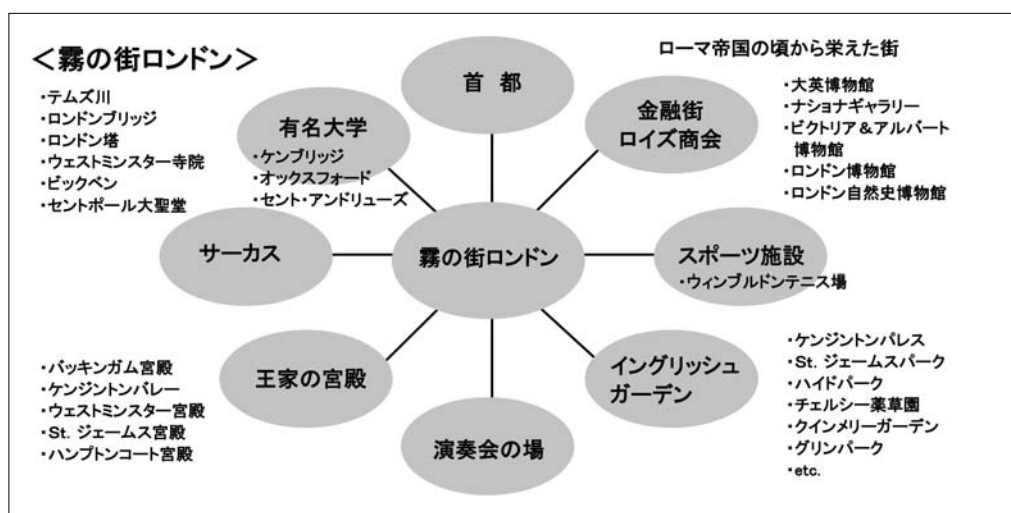
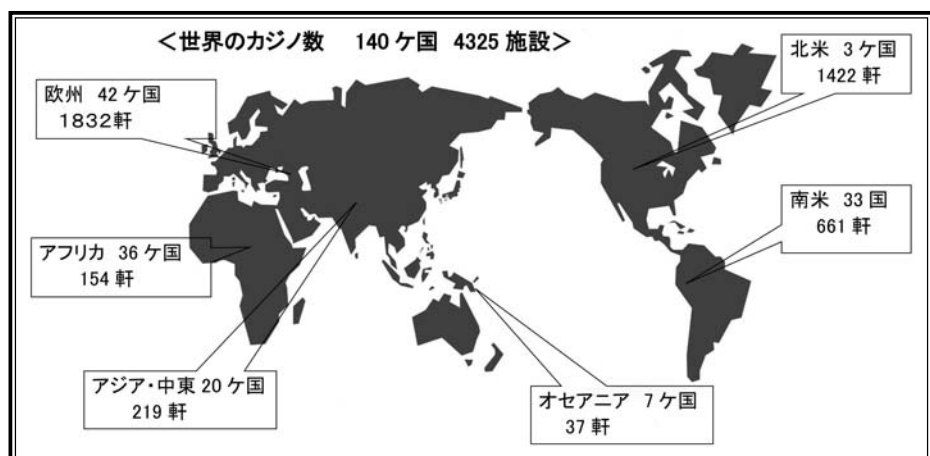


図4 世界の三大都市のIR



※東京都26年度「IRに関する調査業務委託報告書」より抽出

的に送れるようにするのが真のIRであり、それこそが日本が世界に誇る日本型IRとして求めていくべき姿であろう。日本の都市には、本当に「夜の楽しみ」が少ないと思う。パ

リの夜は、グッドやムーランジュール、グレイジーホース等の大衆の娯楽施設や、オペラ、シンフォニー、そしてシャンソン等を楽しめる芸術的空間に至る所にある。そして最高の食事、会話を楽しめるレストランも、オープンカフェも、まさにキラ星の如く並んでいる。そして世界の料理人が、腕を競い合っていると共に、腕を磨きに集まっている。それはロンドンも、ニューヨークも同じである。更に言えば、常時「生の音楽演奏」が至るところで聴け、街の至るところに建築家が腕を競って建てた建築物が展示場にいる如くに見られる。それらはしっかりと都市景観保有条例が効いていて、歴史的保有地区のみでなく、普通の街並みでも統一観がある。日本の街並みは、あたかも新田開発がスプロール化していくかの如くに統一感が無い。そして何よりも

都市の文明度の尺度の一つは、「電柱の少なさと地下の共同溝の充実」と語られるが、ヨーロッパではそれがローマ時代頃から、しっかりとしているのである。逆に残念ながら、東京を始め日本では、醜いばかりに電柱が無秩序に並び、電線がクモの巣の如く張られている。

加えて、世界中の人々が訪れる事に対しての街全体としてのホスピタリティである。道路標識一つとっても不親切であるし、多くで国際化されていない。先の三大都市は住民の生活をしっかりと考えながら、世界の人々の訪問を受け入れる体制が様々に整っている。ホスピタリティに関しては、日本の三大都市、とりわけ東京には、そのポテンシャルは十分にあると考えられる。しかし、ポテンシャルをリアリティにする為の努力が必要不可欠である。

そして世界の三大都市と、今日の日本の京都、大阪、名古屋、東京等の大都市を比較してみると、ナイトエンターテインメントを楽しめる空間は、殆んど無い。浅草の雷門の仲見世にしても、夜は早くしまってしまう。あるいは、呑み屋と一部のコン

サート会場やミュージックバー、カラオケ程度である。より文化度の高い、洗練された「夜の過ごし方」が備わっていない。今や、日本の洗練された伝統的夜の遊びの料亭や、芸者遊びは大幅に減少し、本物の芸者は少なくなり、日本文化と接する事はかなり難しい状況になっている。それは営業時間の工夫で解決するケースもある。繰り返すが、調査してみると東京の持っているポテンシャルは、世界の三大都市にかなり負けないう状況にあるし、逆に世界に無いものもあると私は考えている。計画次第では、それらを越える可能性すらあるとも言えるだろう（後程詳しく示す）。挑戦心を持てば大きく変化していけるのだ！

そして、ロンドン、パリ、ニューヨーク街は、住む人々が何より「ロンドン子」、「パリっ子」、「ニューヨークっ子」と呼び、その住人である事に誇りを持って、日々の生活をエンジョイする姿がある、これが重要な視点である。果たして、世界に向けて、「東京っ子」と自信と誇りを持って言えるだろうか？ そうしたイメージをどのよう

何よりも今日のIR法案が、矮小化されて鉄火場の如きカジノ建設を担うのではなく、これを一つの契機と、日本の都市の魅力を向上させるべく、日本の都市の持つ持っているポテンシャルを十分に引き込んで、世界に誇れるリゾート空間を将来に向けて造り上げていく「戦略目標」を掲げて実行していくべきなのである。

②世界の規範となる有名カジノとIR

既に述べた如く、世界では数多くのカジノがあるが、次に日本型カジノを造っていく上で参考となる次の三つのカジノの内容を見ておこう。

○ラスベガス(アメリカ)

○モンテカルロ(モナコ)

○バーデンバーデン(ドイツ)

(図6参照)

これら三つのカジノの共通項は、いずれも一つの地域全体として世界の成立していることである。単なるカジノのみが独立して営業している訳では無い。その要素は図5に示した通りである。

これらに対し、もっとカジノを前面に出した例として

○ブリスベン(オーストラリア)

○マカオ(中国)

○オークランド(ニュージーランド)
を始め、世界各地に山ほどあるが、今回の日本型IRに関しては、むしろ前者の例を配慮すべきであろう。

(4)日本型IRの中のカジノの提案 — 眠れないファンタジーの街東京 —

次に世界のお手本となる都市や、IR地を参考にしながら、新しい日本のIRについて少し具体的に考えてみよう。その一例として東京を取り上げて見る。

①東京のIR要素 — 多くの日本の文化遺産の存在、しかし —

世界の三大都市と東京を比べた時、ポテンシャルとしては図7に示した如く、東京は、その中に様々なものを内包し、実質的に世界的な大都市であり、その歴史も古く、多くの歴史的遺産をその体内に有し、周辺に美しい自然の風景もあり、文明、文化の両面から大変なポテンシャルを持っている。それでは、東京が世界の三大都市に比べて、欠けているものは何であろうか？その第一はイメージであろう。顔の見えない都市と言わねばならぬであろう。それは前述の如く、世界の歴史の舞台として機能してこなかった事に一因がある。それ故、これから東京が世界の政治、経済、文化の中心として機能する事が何よりも大切である。

次に東京のポテンシャルを見てみよう。例えば、美術館、博物館は年間の日数(365日)以上の数があるが、世界的に大英博物館やルーブル美術館、ニューヨーク美術館に匹敵する有名なものは無いに等しい。実はその内容そのものが、世界の人の耳目を集めるに値する世界的レベルのものが現時点では少ない。しかし、世界的レベルになるポテンシャルが無い訳では無く、世界に向けての教育、宣伝によつては、それを世界的に評価の品々に変える事が出来る可能性は大いに持っている。

今日の文化遺産化の努力はその一つであり、効果が大きい。

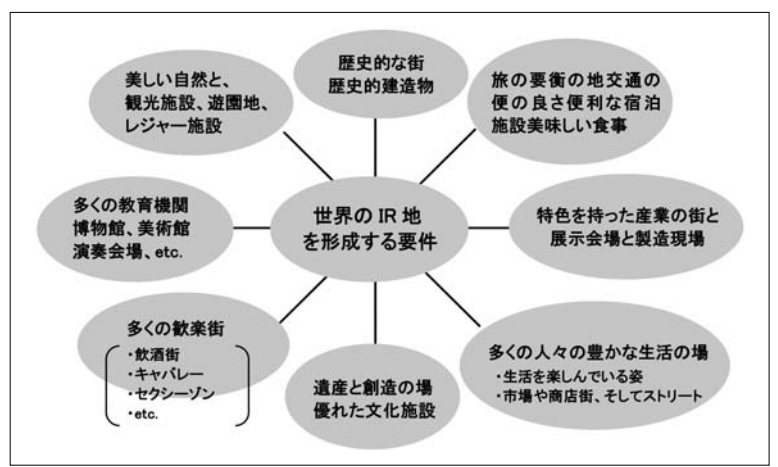


図5 世界のIR地を形成する要件

特に日本の文明、文化に世界中の人々が注目し始めてきている今日は、その価値を大きく広める事が可能であるし、自然、歴史、伝統を結びつけ、その魅力度を高める絶好のチャンスが訪れているのである。特にSNSの活用時代になり、世界中の一人ひとりが情報を集めて世界レベルで行動する時代なのである。

そして、ロンドンのコペントガー
デン、パリのオペラ座、ニューヨーク
のカーネギーホールといった世界的

に有名な演奏ホールも無いし、有
名オーケストラも無い。しかし今日
オーケストラの数も増え、その腕も

上昇し、更に世界的に活躍している
音楽家も多い。可能性として日本で
クラシックを聴きに行こうと考える

人を生み出す事は全く出来ない訳で
は無い。しかし、前述のパリの大衆
的キャバレーのようなものもない。そ

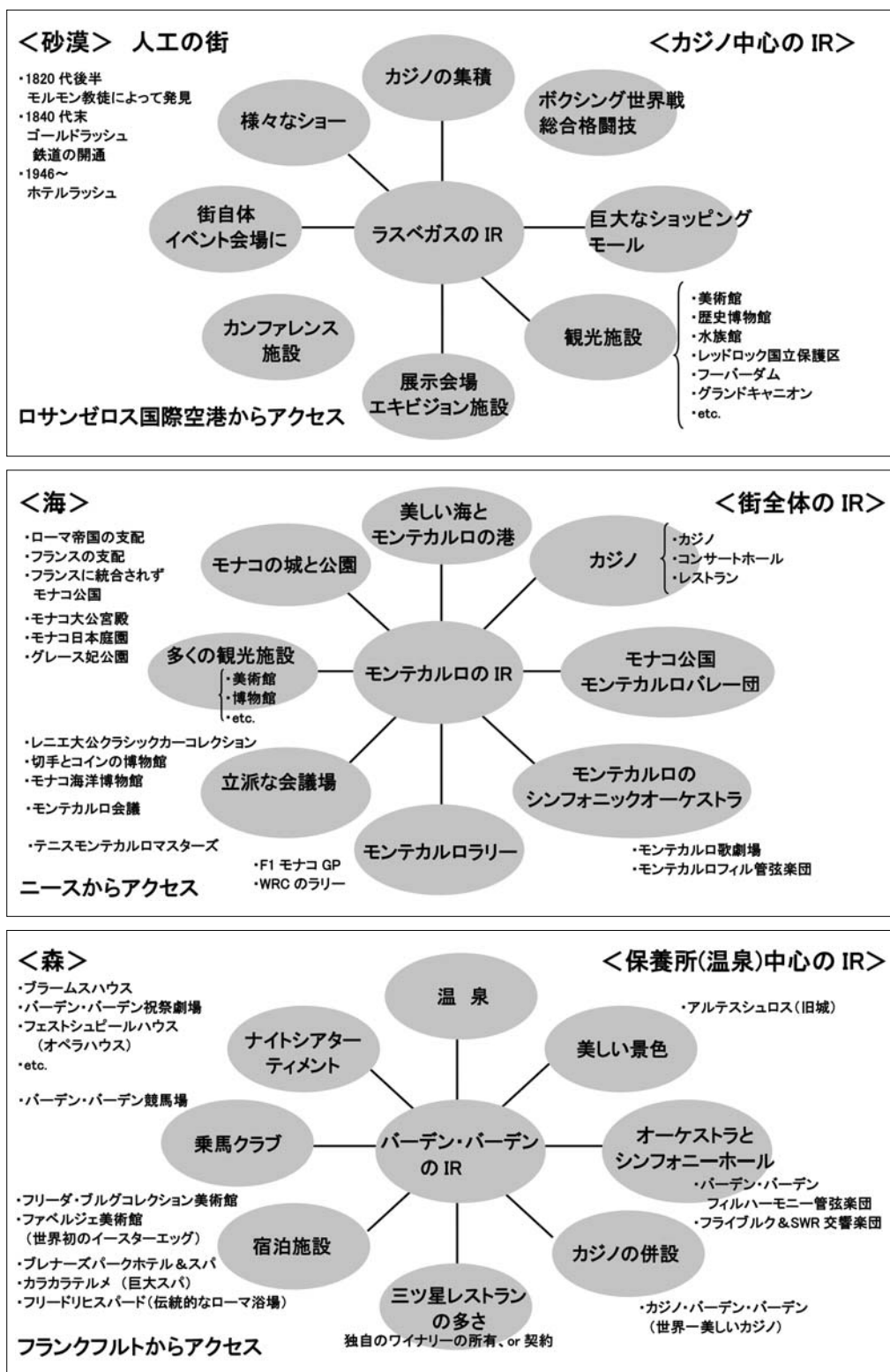


図6 ラスベガス モンテカルロ バーデンバーデン

して大衆的な自由の日々の生活の中で憩いを求められる公園も無い。あ
るのは管理された施設としての公園

か、少し郊外的大型公園があるのみ
である。何よりも河川と公園は、小
さな森と共に重要な大都市の要素で

あり、その活用の仕方が人々の憩い
のレベルを決める大切な要素になっ
ている。但し、日本の河川の利用は、

るが、東京には、その気になり、しつ
かりとデザインすれば、そのポテン
シャルは高いものがある。しかし、一
朝一夕に対処療法的に創るものでは
無く、2020年に一部を間に合わ
せるものの、全体像は数十年かけて
創り上げていくべきなのである。時
間こそが歴史的価値を持つものに変
身成長させていく術である。

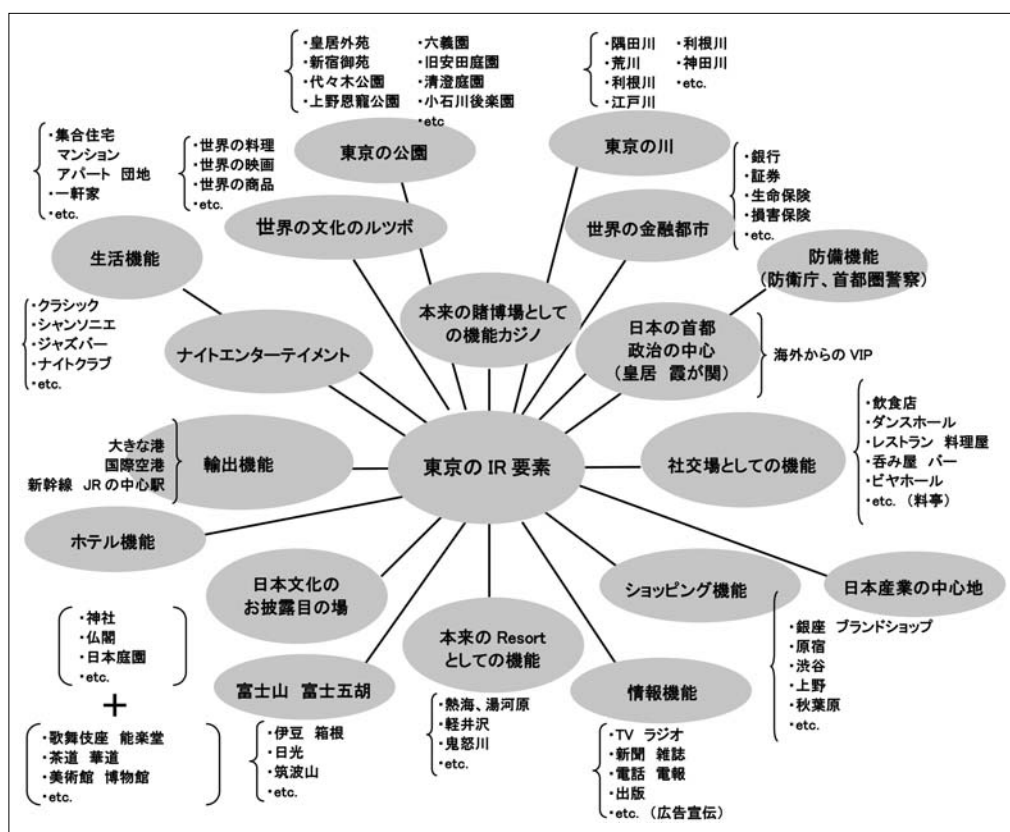


図7 東京のIR要素

そうした中で、何よりも
少ないのは、繰り返すが大人の
夜の社交場であり、遊び場
であろう。大衆的に通える
文化的にも価値のある夜のエン
ターテインメントが少ないし、
ニューヨークのように「眠ら
ない街」は一部の呑み屋街の
みであり、大衆的に健全で、
夜通しやっている娯楽場が殆
んど無い。しかし、再度述べ

るが、東京には、その気になり、しつ
かりとデザインすれば、そのポテン
シャルは高いものがある。しかし、一
朝一夕に対処療法的に創るものでは
無く、2020年に一部を間に合わ
せるものの、全体像は数十年かけて
創り上げていくべきなのである。時
間こそが歴史的価値を持つものに変
身成長させていく術である。
そうした意味からも、一つの核と
して、新しい日本型の不夜城のカジ
ノを中心としたIRの構築を目指
すべきであろう。それを東京を例に
とって少し具体的に考えてみよう。
例えば、築地の跡地にカジノを
建設し、周辺の銀座を不夜城にす
る。そして、周辺の川や海の開発を
し、クルージングを活性化し、お台
場の近辺を半世紀位かけてベニス化
し、観光船を増やし、ゴンドラも遊
覧船に加え、周辺をレストラン化し、
更に周辺の倉庫をソーホーのよう
に、デザイン村を建設し、更にオリ
ンピック村の後の利用を巧みにする
のである。そこには世界中のデザイ
ナーの競争の場とし、箱根の彫刻の
森ならぬ、より大型の地域を彫刻の
森、デザインの森とする。

そして何よりも、その中核にカジノの建物として日本で最も美しい建築物としての白鷺城(図9)を建築し、その中にコンサートホール、オペラハウス、歌舞伎、能の舞台を入れ、日本のパチンコ、花札も、少し遊び方に工夫を加えてゲームに加えるのである(図10)。最低限このくらいの発想が欠かせない。

更に何よりも、皇居と天皇家が日

本の中心的シンボルとして存在し、その周りに霞が関、永田町界隈であり、政治の中心地であり、国会議事堂や憲政記念館を始めとして、多くの建築物や公園がある。更に丸の内、大手町には、東京駅を中心として多くのビジネスの拠点があり、それは同時に観光資源として使える。そして真のリゾート地や、レクリエーション地としては、熱海、湯

河原、伊豆、箱根、日光、鬼怒川や富士五湖周辺、そして軽井沢を改善して用いることが不可能である。加えて多くの日本の伝統文化を披露する施設や場所があり、広告宣伝によつては多くの海外の人々を呼べる可能性を持っている。そしてお台場の周辺には後述の如く、多くの既存施設があり、世界の冠たる海浜リゾート地として作り

上げていく事が出来るだろう。例えば競艇場、競輪場、競馬場、オートレース場等も一時間以内にあり、東



図8 東京のIRの中核地

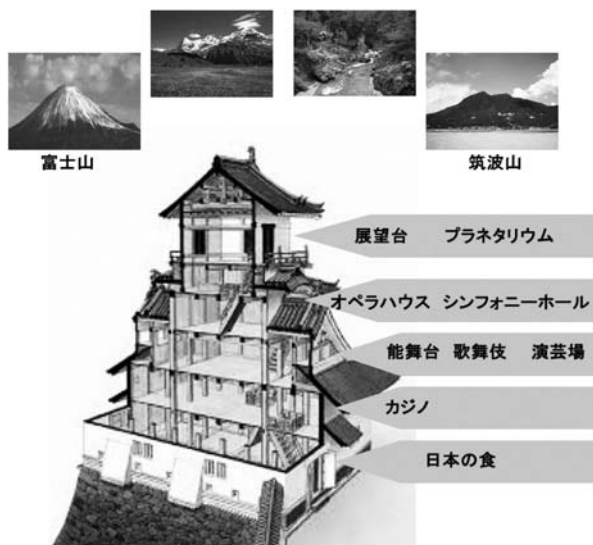


図10 日本型IRの中心施設の中核としての“日本粋館”



図9 姫路城(白鷺城)



図 11 日本型 IR の中心施設 (案)

京湾も水が綺麗になつており、モナコのモンテカルロ港のように美しい港も造れるし、シンガポール港のように、経済港としても機能する部分も、よりデザイン化して、美しい港町にしていく事である。今日寂びれてる湾港を改造すれば良い。横浜港等も既に一部そのように動いている。そのように元々ある日本の賭博施設に関しても、より魅力的に改良して、この中に加えたら良いであろう(図12参照)。幸いな事にお台場の周辺には、こうした関連施設が近く

に存在しているので、それらを活用することが可能である。このように日本文化を盛り込んだ東京に造られるIRの中で、人々はその希望に応じて様々な経験を体験する事が可能となる。加えて図11に示したように、世界中の様々なスタイルのカジノをカジノゾーンに取込む事によって、世界性を併せて加えられるであろう。この世界的文化の多様性、あるいは「サラダボール」こそが日本的なのである。次にもう少し日本の資源を見ていこう。(続く)

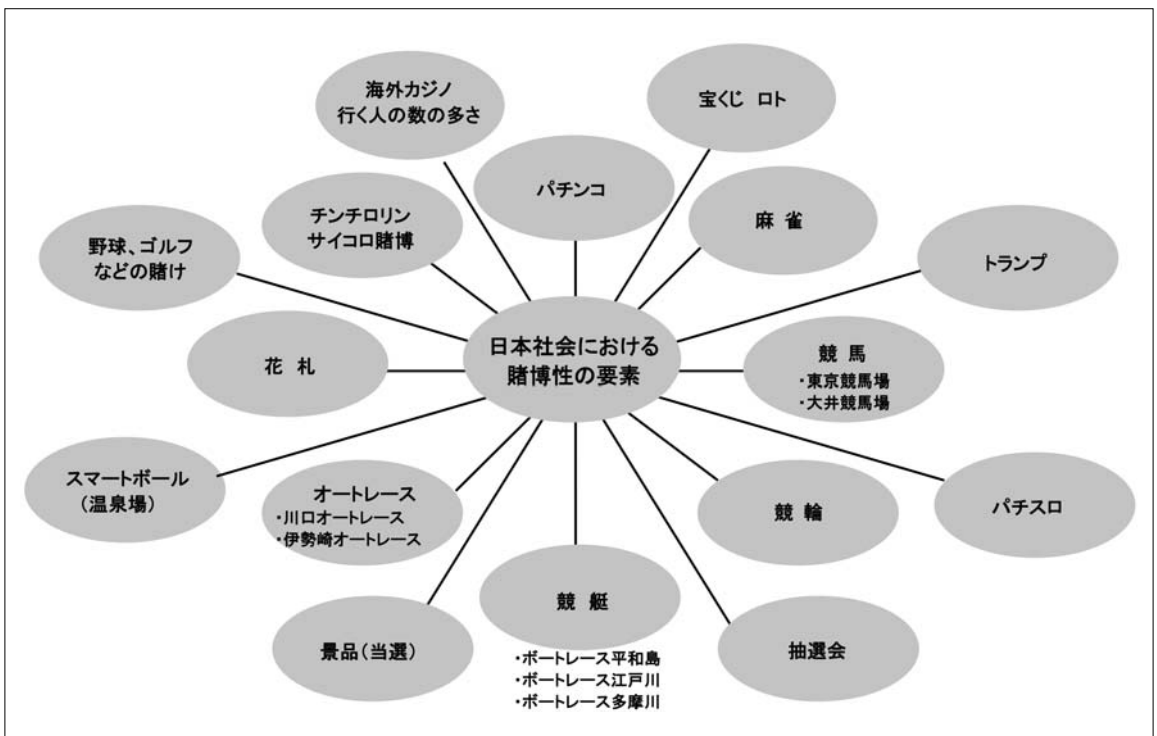


図 12 日本社会における賭博性の要素